

## 【答志島概要】

答志島（とうしじま）は、三重県鳥羽市にある離島です。鳥羽港の北東約 2.5km に位置する鳥羽市最大の島であり、答志（とうし）、答志和具（とうしわぐ）、桃取（ももとり）の 3 集落があります。

地形は、総面積 6.98k m<sup>2</sup>、周囲 26.3 km で、島の 80% が自然林で占められており、桃取町の奈佐には、市の木であるヤマトタチバナの原木が生えており、県の天然記念物にも指定されています。主な産業は、漁業・養殖業・観光業です。

**【歴史】** 古くは『万葉集』にて、持統天皇の伊勢行幸にあたって都に残った柿本人麻呂により、『釧着く答志（手節）の崎に今日もかも大宮人の玉藻刈るらむ』（巻一・41）とよまれた地であります。平城京跡から発見された和銅 5 年（712 年）木簡にも『志摩国志摩郡手節里』、養老 7 年（723 年）木簡に『志摩国答志郡和具』の文字がみえます。

『和名抄』でも、答志郷・和具郷との名もみられます。答志には志摩国の国衙があったとされ、その跡と思われる大畑遺跡が発見されているいます。

また、答志島は中世の九鬼水軍の根拠地であり、九鬼嘉隆終焉の地であります。

**【沿革】** 1889 年（明治 22 年）4 月 1 日 - 町村制施行に伴い、答志郡答志村が成立。

1896 年（明治 29 年）3 月 29 日 - 答志郡と英虞郡の合併により所属郡が志摩郡に変更。

1897 年（明治 30 年）5 月 31 日 - 答志村から桃取村と菅島村が分離。

1954 年（昭和 29 年）11 月 1 日 - 昭和の大合併により、桃取村、菅島村とともに鳥羽市の一部となる。

**【祭り】** 答志島、八幡神社の祭礼である「神祭」は毎年旧暦の 1 月 17 日～ 19 日に行われます。弓引神事は、祭の中で最も盛り上がる迫力満点の行事です。「お的衆」と呼ばれる若者たちが、畳一枚半ほどの「お的」（木組みに紙を張って墨を塗ったもの）を担いで坂を駆け上がると、待ちかねた町民が次々とお的に飛び込み墨紙を奪い合います。人々は護符にかわるこの墨紙で家の戸口や船に「丸に八の字」を書いて、1 年の大漁と家内安全を祈願します。弓引神事後、舞台では獅子舞が始まります。町民一丸となって祝う勇壮な祭りは、島の若者たちによって今も受け継がれています。（国土交通省の島の宝 100 景に選定）

